

アカデミーヒルズ 活動レポート

アカデミーヒルズでは、講座やセミナー、人的交流を目的としたイベントを多数開催しております。

アカデミーヒルズで開催した各種イベントから、お客様より好評をいただいたものをご紹介します。

2008年1月31日(木)

Roppongi BIZセミナー

金融グローバリゼーション

～国際金融センターを目指す東京のこれから

ゲスト

斉藤 惇

株式会社東京証券取引所グループ 取締役兼代表執行役社長
株式会社東京証券取引所 代表取締役社長

モデレーター

竹中 平蔵

[アカデミーヒルズ理事長／慶應義塾大学教授]



品取引所も株価指数先物などが取り扱えるようになる。東証では、経営計画において現物市場とデリバティブ市場の二つを推進エンジンに位置づけ、我が国の個人投資家へのリスクアセットの選択肢の拡大を目指していきたいと考えている。

また、産業界ではEPAやFTAなど経済連携協定を締結し、貿易障壁を下げる方向にある中で、日本の豊富な資金力と株式市場の流動性を最大限に活用し、アジア新興企業のメインマーケットの地位を確立することが必要である。そこで現在東証はロンドン証券取引所との合併で、情報の収集・分析能力のあるプロ向けの新市場創設の準備を進めている。全ての投資家が参加する既存のマザーズ市場と相乗効果で、日本の機関投資家がリスクをとらない状況が変化し、ひいては日本の直面する企業における少子高齢化の対応策にもなるであろう。

東証としては、内外の投資家がわが国の市場に投資して、収益を得られるようにする為に、上場商品の品揃えの強化、プロ向けの新市場の創出といった受け皿を作る。そして世界中のリスク資本をわが国に呼び込み、将来的にはアジアの資金循環の中核市場としての地位を確立したいという希望を持っている。

グローバル化とITの進展が経済環境を変革

1990年代以降、経済のグローバル化の急速な進展とITの発展によって世界の金融資本市場は大きく変革した。デリバティブ市場において、信用リスクも理論価格に基づいて取引されるようになった。市場価格と理論価格間の裁定取引が発達し、原資産が何であれキャッシュフローを証券化する考え方や技術が普遍化したのである。また、M&Aファイナンスや不動産ファイナンスなど新たな金融手法が普及し、多様な金融商品が派生した。

投資家の顔ぶれも多様化し、ヘッジファンドやプライベートエクイティファンドなどがプレイヤーとして活躍するようになった。金融取引手法とファンドの拡大により世界中の資金がグローバルに回り始めたのである。

産業と金融で実現する日本の持続的発展

世界市場の中心に位置する欧米の先進的金融機関は、伝統的な銀行のビジネスモデルを変化させ「オリジネート&ディストリビュート型」モデルを開発。高い格付けを維持するために十分な自己資本を持ちながら、一方で株主の要請を受けて高い資本利益率の達成に挑戦し続けてきたのであった。

翻って、日本は1993年来、OECD加盟国の中で一人当たりのGDPの順位は右肩下がりであり、世界経済における日本のプレゼンスの低下を如実に物語っている。この間日本は不良債権問題の整理と金融システムの安定化に腐心してきた。不良債権問題は、「リレーション・キャピタリズム」と「間接金融システム」の終焉を意味する。リスクを銀行に集中しすぎたことにより日本経済は機能不全に陥ったが、結果的には大きなパラダイムの変換をもたらしたと言える。

日本経済の持続的発展のためには、製造業と金融産業のバランスある成長を目指すしかない。労働人口の減少、中国をはじめとする新興国との熾烈な競争を鑑みるに、製造業のみに依存するのではなく、どちらかという金融産業に軸足を置くほうがスピードと効果があるのではないか。さらに、金融産業の本来的機能であるガバナンスが有効に発揮されれば、結果的に社会全体の倫理観や他の産業の生産性向上に貢献できる。

発展の鍵は個人金融資産の効果的な活用と東証の国際化

製造業と金融の健全な発展のためには、「企業が新たな付加価値を創造するリスクに挑戦する力」「金融資本市場がリスクマネーやソリューションを機動的に提供していく力」この両者が相乗的に発展していく社会を作らなくてはならない。我が国の国際競争力を持つ製造業と、1500兆円といわれる個人金融資産によって新しい国造りができると考える。それには、個人金融資産を金融資本市場に効果的に投資して高い収益を生んでいくことが不可欠であり、そのために、東京証券取引所の上場商品の品揃えを強化し、世界のリスク資本を呼び込み、再配分するような場にしたい。昨年末に金融庁が取りまとめた金融市場競争力強化プランによって、商品デリバティブを金融商品取引法と商品取引所法の二つの法制度下に置くことで、東証を含めた金融取引所が従来の商品ラインナップを越えた多様な投資物件を提供することが可能になり、一方商

2008年3月・4月のイベントスケジュール

スクール ビジネスパーソンを対象にした公開イベントです。(有料プログラム)

開催日	講座タイトル	ゲスト(敬称略)
3月18日[火] 19:00~	2時間で学ぶはじめてのマーケティング ～仕事に活かすマーケティングの基礎を学ぶ～	柴田 正幸 [Jacky Marketing Office代表]
19日[水] 18:30~	第39期アーク都市塾 コメントセレモニー(卒塾式)	米倉 誠一郎 [アーク都市塾塾長/一橋大学イノベーション研究センター教授] 伊藤 滋 [アカデミーヒルズ会長兼アーク都市塾名誉塾長/早稲田大学特命教授] 竹中 平蔵 [アカデミーヒルズ理事長/慶應義塾大学教授] 森 稔 [アカデミーヒルズオーナー・ファウンダー/森ビル株式会社代表取締役社長]
23日[日] 10:00~	1日で学ぶPR入門・演習講座 ～PR活動の基礎知識とスキルを身につける～	山見 博康 [山見インテグレーター株式会社 代表取締役、ハリー・インテグレーター]
24日[月] 19:00~	出版記念セミナー ぼくたちのアニメ史～世界に誇るコンテンツ 日本アニメ産業の誕生と発展	スピーカー: 辻 真先 [脚本家/小説家 デジタルハリウッド大学 国際アニメ研究所所長] ゲ ス ト: 佐伯 知紀 [芸術文化調査官 文化庁文化政策課芸術文化課] モデレーター: 高橋 光輝 [デジタルハリウッド大学大学院准教授/国際アニメ研究所副所長]
25日[火] 19:00~	オンラインビジネスセミナー インターネットが最適化する、 メディアの垣根を飛び越えるブランディングとは ～ビーコン コミュニケーションズが仕掛けるクロスメディア・マーケティングの実際～	ゲストスピーカー: 渡辺 英輝 [ビーコン コミュニケーションズ株式会社 インタラクティブ・クリエイティブディレクター] プログラム企画: 神原 弥奈子 [株式会社ニュース・ツー・ユー 代表取締役] モデレーター
4月14日[月] 19:00~	東洋経済提携セミナー 太田肇の「承認欲求」 個人尊重が生み出すモチベーションのしくみ	スピーカー: 太田 肇 [同志社大学 政策学部 教授/経済学博士]

Library Talk 六本木ライブラリー会員対象のコミュニティ イベントです。

*開催時間は全講座 19:15~20:45

開催日	講座タイトル	ゲスト(敬称略)
3月17日[月]	現代地図トーク 「地名が変わるとき ～自治体名・町名・駅名の変遷から見える地域史」	スピーカー: 今尾 恵介 [地図エッセイスト] モデレーター: 太田 弘 [慶應義塾教諭/日本国際地図学会常任委員/ コミュニティメンバー]
21日[金]	ライフスタイルサロン特別編 「今求められる編集力とは…」	対 談 安藤 礼二 [多摩美術大学准教授] 竹中 平蔵 [アカデミーヒルズ理事長/慶應義塾大学教授]
25日[火]	『朝11時までメールを読むな!』(講談社BIZ) ～後悔しない決断の技術～	織田 隼人 [著者/シオンコンサルティングCEO]
4月 7日[月]	「就活の法則」(講談社BIZ)(仮)	波頭 亮 [著者/XEED代表]
11日[金]	「HBSP プロジェクトはなぜ円滑に進まないのか」 (ファーストプレス)(仮)	エム・アイ・コンサルティンググループ株式会社 [訳者]
16日[水]	「アメリカ大統領選挙からみるアメリカ社会」(仮)	ジェラルド・カーティス [コロンビア大学教授]
21日[月]	「デジタルアーカイブスについて」(仮)	武邑 光裕 [札幌市立大学教授]
24日[木]	「ポラーベア写真集紹介」(仮)	リサ・ヴォード [フォトグラファー/(株)エムシープランニング取締役]

*ご取材、ご参加に関して詳細はお問い合わせください。 Tel: 03-6406-6649 (担当: 深町)

アカデミーヒルズ「スクール」の御紹介

六本木ヒルズの文化施設の中で「ART」を提供する森美術館に対し、アカデミーヒルズは「Intelligent」をになう施設です。アカデミーヒルズには「スクール」「ライブラリー」「フォーラム」の3つのサービスがあります。今回はスクールのご紹介をいたします。

スクール

アカデミーヒルズの歴史は1988年、当時の森ビル社長森泰吉郎の出した「アーク都市塾教育宣言」に始まります。「能動的な学習」「独創的な情報の創造」を目指し、独自の機会を提供するという理念は今も変わりません。

2003年六本木ヒルズのオープンと共に今の場所に活動の場を移し、現在は3つのカテゴリーのスクールを開講しています。



アーク都市塾

塾長は米倉誠一郎。都市社会を切り拓くイノベーション人材の育成をめざし1988年に開塾。現在39期を開催(1期6ヶ月間)、20年間で延べ8000名の卒業生を輩出。講義とゼミ活動を通して「知識」「技術」「感性」を磨き、卒業制作では都市社会の今日的課題を発見し、解決のための提案書をまとめる。39期は「イノベーション」「経営戦略」「都市開発」「不動産投資」などをテーマに計6コースを実施。



Roppongi BIZ

1日完結・短期集中型のビジネススクール。テーマは「ビジネス最前線」。ビジネスのいまを捉え、ビジネスパーソンのいまのリクエストに応え、年間150講座を開催。デザインビジネス、コンテンツビジネス、インターネットマーケティングといったトピックから、ファイナンス、アカウントティングブランド、マーケティング、ロジカルシンキング、コーチングなどビジネスの基礎まで幅広いラインナップで開講。



アーテリジェントスクール

週末開催のカルチャースクール。ワイン、ヨガやウォーキング、メイクアップ、フラワーアレンジメント、マナーなどの毎月50ほどの「ワンデー・レッスン講座」を開催。受講生の8割が女性、平均年齢は32歳。六本木ヒルズでショッピングや映画、アートを楽しむ感覚で好奇心旺盛な女性が集まる。

アーク都市塾教育宣言



アーク都市塾創始者
森泰吉郎

真理は生涯にわたり追究されるものであり、学習は一生におよんで継続される人生の活動である。しかるに、現在の教育体制は人生の極めて初期に集中した努力を要請する一方、それ以後においては適切な機会を提供しえないでいる。さらに、社会が物財の生産に重点のあった工業社会から知識の創造に価値のおかれる情報社会に移行した現在において、これまでの受動的な教育から、能動的な学習へ、また、画一的な情報の伝達から独創的な情報の創造へと発想の転換がこの分野でなされなければならない。アーク都市塾は、これらの社会の要請を背景とし、平成の新時代を開拓する意欲をもつ人材に独自の機会を提供すべく、現代の都市を象徴する空間アークヒルズに設立されたものである。ここでの学習と交流を基盤に幾多の人材が輩出し、世界の未来の発展に寄与されることを期待するものである。

森ビル株式会社 アカデミーヒルズ事業部 マーケティングコミュニケーション 深町 友子

TEL: 03-6406-6649 FAX: 03-6406-9350

MAIL: academyhills-PR@mori.co.jp URL: www.academyhills.com